



56.5×90.5

22. 鈴木宇吉奮戦開門図 明治31年（1898）

上小埜 木戸八幡神社（目録 15）

奉納者の鈴木宇吉は、明治28年日清戦争に参加した。台湾において激戦中、単身敵城に侵入して開門し抜群の功績をおさめたとして金鷄勲章を授与した。その記念に奉納したものである。

町内の絵馬に見られる主な絵師

鈴木寿山（1838—1918） 絵馬NO20・21

天保9年日光今市（栃木県）の星家に生まれる。本名を寿三郎、寿山と号した。日光山で絵画奉行を務めたが戊辰戦争の際、棚倉方面への道を誤り渡辺村（いわき市）にたどり着き、同村田部の鈴木家に婿養子に入り画業につとめる。明治15年第1回内国勧業博覧会に、明治17年第2回内国絵画共進会に本県から出品して入選する。明治初期の本県著名の日本画家。大正7年81才で没す。

高荒芳州（1854—1930） 絵馬NO17

安政元年伊達郡飯野村に生まれる。谷文晁派の流れをくむ画家、晩年九州別府の白心萃に師事してから巖華の号を用いたとされる。早川儀平（現上小埜故早川信夫家先祖）とは親交があり、たびたび同家を訪れ一ヶ月ぐらい宿泊しては絵を描いたという。町内の旧家には芳州の描いた掛け軸が数多く残されている。晩年は茨城県多賀郡松原町で75才で没す。

東雲 絵馬NO2・15

木戸八幡神社の「文化4年神功皇后三韓征伐図」と立石不動尊堂の「文化10年山姥図」の二点残されているが、県内の絵馬・絵画調査報告書によると東雲については絵馬は、国見町に養蚕図では県内一古いと言われる「文久3年養蚕図」と、矢祭町の「年不明高砂図」の二点あるのみで、詳細については不明である。

そのほか乙次郎地区の霧ヶ滝不動尊堂には海山楽一による3つの絵馬が奉納されている。この不動尊堂は明治37年3月に「竜頭山霧ヶ滝勤王不動館講社」を創立していて、ときの御嶽教大講義担任教師の鯨岡次輔の雅号が楽海で見られることから、同一人物と思われる。大正時代にみられる□斎・逢州はいずれも不明である。昭和時代の幸月・幸太郎は同一人物で、井出浜の青木幸太郎のことで趣味で描いたという。後他県へ移る。また松本茂雄は上小埜生まれで肖像画を得意とした人。